

2019年度 海外インターンシップ報告書

長野大学 環境ツーリズム学部 環境ツーリズム学科 3年

実習期間	令和元年 9月 2日(月) ~ 9月 14日(土)	13日間
実習企業	ACA CONSULTING COMPANY LIMITED	
実習地	ミャンマー	

1. 実習目的

Chapter1 purpose

様々な文化を学び、コミュニケーション能力を高めたり、様々な考え方を吸収し視野を広めたりしたいと考えるため、海外インターンシップを志望しました。海外という環境においても、そこで疑問を持ったことに関してまずは自分で考え抜き、周りの方にも聞きながら関心を持って取り組む力や、現地においても自分の考えを持ち発信していけるようになりたいと考えました。

また、大学では地域の自然環境やまちづくりについて学んでおり、自然環境や街並みと調和した環境の中の建築を学ぶことで、大学での学びにもつなげていけると考えました。建築業界は自分の専門外であるからこそ、新しい発見や専門分野との意外なつながりを得たり、今後発展が期待される発展途上国での研修を通して、建築というハード面から持続可能な地域づくりについて考えたりしたいと思いました。

2. 実習先概要

Chapter2 summary of company

株式会社エーシーエ設計のヤンゴン事務所で実習をさせていただきました。株式会社エーシーエ設計は、長野本社を始め、東京支社、松本支社、上越支社のほか、ベトナム・ホーチミン市、ミャンマー・ヤンゴン市にも事務所も開設し、地域に根差した建築を中心に設計しています。ヤンゴン事務所では、建築設計・企画・コンサルティングに関する業務を行っています。

3. 実習日程

Chapter3 schedule

- 9月2日(月) ヤンゴン到着
- 9月3日(火) 市内視察
- 9月4日(水) 出張計画、会社案内の練習
- 9月5日(木) 会社案内の練習、営業研修
- 9月6日(金) 建設現場視察
- 9月7,8日(土,日) 休日
- 9月9~12日(月~木) 客先訪問・市場調査
- 9月13日(金) まとめ

4. 実習内容

Chapter4 laboratory

実習内容は、会社説明や設計業務の流れの説明を学び、営業活動に同行したり、ヤン

ゴン管区内の工事現場を含む建物見学をしたりしました。業務内容である企画設計やコンサルティングについて、約2週間の実習を通して理解することができました。日本では建築やデザインにおいて細部まで高いクオリティーが求められるが、ミャンマーの現地での実用性が重要であり、現地の技術でつくることができるものを見定めながら、設計を行うことを学びました。

具体的には実習初日の9月3日はヤンゴン市内の視察を行い、パゴダやミュージアムに行き、ミャンマーの歴史や文化を学びました。また、ヤンゴン市内の中でも最貧困地区であるダラ地区を訪れました。

実習2日目は出張先や移動手段の計画を立てたり、会社案内を英語で練習したりしました。出張先は、リノベーションの提案から顧客の獲得を目的としたため、ホテル業界を中心に定め、まずは観光地を調べるところから始めました。ミャンマーの国土面積は日本の約1.8倍もあり、人気の観光地も様々な地域にあったため、効率的な移動方法を探りながら出張先を決定しました。また、営業先はインターネットの宿泊サイトの料金や写真を参考にしながら決めました。会社案内の練習では、営業先に渡す英語表記のパンフレットを何度も読み理解してから、端的にわかりやすく伝えるため練習を重ねました。

実習3日目も引き続き、出張計画を立てたり会社案内の練習をしたりしました。また、会社訪問として実際にインターナショナルスクールや病院の営業に同行しました。営業活動に同行することは初めてだったため、仕事内容について理解することができました。

実習4日目はティラワ経済特区と現地の工業団地を視察し比較しました。次週の9月9日はバガン地域、9月10,11日はマンダレー地域、9月12日はインレー地域を訪れ、ホテルを中心に現地のスタッフの方と一緒に営業を行い、英語で会社案内をしました。訪問先では、いかに印象に残ってもらえるようにするか、また相手の求めていることや興味の持ちそうな内容を考えて提案できるかが重要だと感じました。

最終日の9月13日には、客先訪問やミャンマーでの生活で学んだことをまとめ、現地の日本人スタッフ方と意見交換をしました。

5. 実習の成果（成長した事）

Chapter5 result

今回のミャンマーでの実習を通して自己成長できたと感じます。言葉が通じないという状況の中で、自分の意思を伝えたり相手の伝えようとしていることを読み取ったりすることは難しかったが、現地の人に自分から積極的に話しかけることで、コミュニケーション能力を上げることができました。また、営業先では英語だけでなく現地のビルマ語での会話が多く、理解することが難しかったが、傾聴力を伸ばすことができたと感じます。

発展途上国であるミャンマーで生活をして、世界情勢についてさらに関心が高まりました。ミャンマーでは、未だにロヒンギャ問題など宗教上の対立から紛争が起こる地域があり、今後どう解決されていくのか気になりました。出張では国内の様々な地域を訪れることができ、地域によって全く異なる雰囲気にとっても刺激を受けました。2日目に訪れたダラ地区では、同じヤンゴン市内であるにも関わらず川を挟んだだけでスラム街であることに驚きました。しかし、現在橋が建設中であり今度発展していくことが期待されていると感じました。

また、5日目には日本政府が開発支援を行うティラワ経済特区を訪れ、建設現場を視察しました。その後訪れた現地の工業団地では、計画的なティラワ経済特区とは対照的

に、道路が整備されず、土台がしっかりとできていないため、洪水になったり崩れてしまったりしている現状を目の当たりにしました。また、そこに住む人々は、しっかりとした教育を受けられなかったため、働くことができない人々が多く暮らす事を聞きました。現在、このような人々に対して JAICA が積極的に支援していたり、ダラ地区を訪れる際に利用した船は日本の ODA で寄贈されていたりしており、とても関心を持ちました。

自分自身、大学では水資源についても研究をしているため、発展途上国の水環境の整備についてや「アジア最後のフロンティア」と呼ばれるミャンマーが今後発展していくことで起こる環境問題について研究したいと感じました。

6. 今後の課題

Chapter6 problem

実習では、言われたことや決められたことに対して忠実に実行することができたが、仕事の面において恐れず自分から働きかけることができなかつたため、課題点だと感じました。また、日本とは全く違った環境の中で過ごし多くのことを得ることができたが、インプットばかりでそれをアウトプットする力が足りなかつたと感じました。そのため、課題解決力を向上させ、それを発信していく力を伸ばすために、客観的に現在の状況を分析しながら課題解決に向けた道筋を立てるとことや、自分の意見を整理した上で、理解してもらえようように伝えるということを頑張りたいです。

7. 海外インターンシップに行こうか迷っている学生に一言

Chapter7 Advice

海外インターンシップに少しでも興味を持っているのであれば、参加すべきだと思います。海外インターンシップでの実習だからこそ、旅行では得られないようなことを学ぶことができ、そこでの経験がきっと自分にとってのかけがえのない財産になると思います。

8. 謝辞

Chapter8 Address of gratitude

今回の海外インターンシップでは大変お世話になりました。多くの貴重な体験をさせていただき、感謝申し上げます。今後はこの経験を活かして励んでいきたいと思ひます。本当にありがとうございました。